



創立120周年

東京歯科大学広報



戊子（つちのえね）

平成20年1月

金子 譲学長による年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。平成20年新年は好天気が続きましたので、皆様もご家族と一緒
に大変良いお正月を過ごされたことと思います。元旦の「旦」という字は日が水平線（日の下の一）から
出てくるといふことで、日の出の意味を表すそうです。この「旦」という字に、肉月を付けますと「胆」
（キモ）になります。「胆」というのは、肝臓と胆嚢が一緒になり、人間の体の安定と気力を保つ基だ
ということが漢方医学の考え方だそうです。本学は、今年この「胆」を決めるといいますか、事を成す上
で緻密な計算と計画をしながら、ある時決断をするということが必要な年になるであろうと思ってお
ります。

2007年12月

2008年1月

228号

本号の主な内容

- ・金子 譲学長年頭挨拶
- ・ベトナムCountry'sideにおける医療援助報告
- ・文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」(大学改革推進事業)に参加
- ・市川総合病院「地域がん診療連携拠点病院」に指定される
- ・2007年の回想&2008年の抱負

財務の現況

さて、今年は石油が急騰しており、物価もこれに影響を受けて上がり出したようです。このことは我々の生活、特に給与面においても直接影響を及ぼすものであります。医療業界では、景気は直接的には影響されにくい環境にあったわけですが、最近では医療費削減ということで、医療収入を上げることはできて、支出が削減できずに差益を出すことは非常に難しくなってきました。しかし、本学は私立大学ですので、教育・研究・臨床の中で、財務の安定的な基盤をつくり上げていかねばなりません。これをやり遂げないと投資ができませんので、皆様にも十分にご協力をいただきたいと思っております。大学の財務についてですが、昨年の約3億5千万の黒字決算に対して、平成19年度予算は、当初約1億5千万円の赤字予算を計上していましたが、現在の法人経理による試算では、黒字決算の見込みとなっております。しかし、本学の全体の収入の7割が医療収入ということは皆さんもご存じではあるかと思いますが、その医療収入については、今年は増加しておりません。皆さんのご努力のおかげで、支出を削減することにより黒字になるであろうということですので、現況は非常に厳しい状況にあるのだという認識をしていただくことが妥当であろうと思っております。今後も予算計上している上で、執行せずに済むものがあれば、その予算を使用せずに、より一層の経費の削減をお願い致します。

教育・研究・臨床

大学の学務の現況は、まず学生の教育について、特に歯科医学教育開発センターが設置されてから多くの実績をあげてきました。私も過日、特色GP・現代GP公開フォーラムに参加しましたが他の歯科大学と比較しても、東京歯科大学が非常に先端を切っている大学の一つだろうという実感を持ちました。学生の教育は知識を習得することと同時に、これを以て創造していくことが重要です。この創造性を持つということは、知識が古くなっても、また新しい知識獲得をする意欲を持つことにつながっていくのです。したがって、ものを覚えさせるということも教育の大事な一つではありますが、生涯にわたって教育の成果を鑑みると、単にその時覚えた事柄だけで生きてゆくわけではありませぬので、自分で創意工夫ができるような教育をすることが必要です。この問題は今後日本の教育制度において非常に危惧されていますので、これは文部科学省をはじめ、学生教育の重要性をもう一度再確認して、いろいろな施策が打ち出されています。

さらに大学をより高度なものとして位置付けるために、大学院の役割が非常に重要視されるようになってきました。これは他の学部と同様に歯学部でもそうであり、これからは学部教育と大学院での役割分担を明確にし、本学でも大学院の充実が重点的な課題になっております。その一つは大学院の専攻の問題ですが、これは奥田克爾前大学院研究科長の時から検討されており柳澤孝彰大学院研究科長になって、今年のはっきりとそれが具体的に打ち出されてくるだろうと思っております。それは、本学の大学院として大学院生が基礎と臨床という区画の中だけではなく自由に研究体制がとれ、高度な専門職の育成という役割を持つということです。例えば、歯科医療の中でも専門医制がだんだん増えてきて、本学では口腔外科、小児歯科、歯周病、歯科麻酔の看板を出せることになっていますが、今後は専門医制の名称はもっと増えると思っております。元々本学の大学院生は臨床に約9割近くが在籍しておりますから、十分そのような認識はあったのですが、今後はさらに研究マインドを持った臨床医を育成していくことになると思っております。

それから現在の社会は常に競争です。大学においても同じで、我々がそれを取捨選択をしながら、大事なところではその競争に参加をしていくことが大切です。競技で言えば良い成績を取り、競争的な資金を獲得していくという、現在はそのような時代なのです。ですから本学もその競争にアプライをしていくのですが、その競争のプログラムが歯学部や医学部だけに限っているものは少なく、他の学部と競争しなければならないという厳しい現状があります。本学が平成17年に申請した二つのGPは、それぞれの採択率が約1割という中で2件とも採択されましたが、これはかなり画期的なこ

とであろうという認識を持っています。これは、本学が常に先を読みながら、実際にその競争に挑戦していった成果であると思います。これをこれからやりますという話では遅いのです。すでにある成果を上げながらではないと、レースには出られません。考えたら実行し、そして評価をしながら進んでいく、この過程が重要であると思います。

続いて病院の関係では、今後、日本の人口分布の中で後期高齢者の方々が非常に増えてまいります。その後期高齢者に対する診療は、現在の千葉病院においては安全性を担保された診療体制で行われていますが、専門医療として行う高齢者の診療科はありません。今後、どのような診療科にしていくのかは検討中ですが、石井拓男千葉病院長のもと設置する予定になっております。後期高齢者を対象とした診療内容については、歯科医師会が現在、非常に活躍していますので、一般の歯科医と競合するような形にする必要はないと思います。大学ですから、専門性を持って、それぞれのある部分を統合した形でやるのが良いと思います。さらには教育という重要な点があり、教育をするためには研究がありますので診療主体型というよりはむしろ、診療をしなければ教育・研究はできない体制になるという推測をしています。要はこれからの後期高齢者歯科医療の政策をつくり出せるような診療科にしていくことが重要です。

その他の学務の面ではやはり国家試験についてでしょうか。現在、本学は良い成績を得ておりますが、これは今後も継続していかねばならないことであると思います。しかし、現在の国家試験はやはり知識偏重型であり、これからは臨床実習を主体にした形態の問題になっていくということですので、実地を経験した上で自分たちが問題を解決する習慣を付けないと解答できないことになると思います。これは平成22年から実施される予定ですので、この準備も必要だろうと思います。また、本学の学生について言うと、他大学の学生と比較して、忙しくてもゆとりがあるような雰囲気を持っていると感じています。これは、人間性や内在している力の大きさを示すものでもあり、本学の建学の精神である「歯科医師である前に人間たれ」という一つに通じる大事なことであると思います。このような点は、6年間の教育の中でどのように、そしてどれだけ植え付けていけるかは難しいのですが、知識を植えることと同時に忘れてはならないことであると思っています。

創立120周年記念事業ほか

続いて本学の創立120周年記念事業についてお話し致します。もうすでにご承知ではあるかと思いますが、本学は1890年の創立から2010年に120周年を迎えます。その記念事業の計画を立てるにあたり、すでに各事業における組織や委員会も準備されております。

その記念事業の中で、本学の将来構想を見据える点で、教育のハードの面、教育施設についての命題を井上 裕理事長より与えられております。つまりは、21世紀に入り、様々な社会背景、状況を考えたときに本学の校舎を現状のまま稲毛で行うのか、水道橋で行うのか、あるいは一部を水道橋で行う分断した教育体制をとるのかという三つの選択肢の中から検討してきました。もちろん、この案件は理事会の決定事項ですので、その承認を得て検討してきましたが、この事業を進める上でクリアをしなければならない問題が三つあります。それは、校舎のスペース、そして財務、もう一つは千葉市に移転してきた際の行政との約束事の問題です。行政との約束については問題がないようですが、いずれにせよ今後もきちんとした準備、手立てをして進めていかねばなりません。その手立てについては理事会の決めることではありますが、働いているのは雇用されてる我々であり、その意向は当然ありますので、これからの教授会でその準備の中身についてお話ししていきたいと思っております。理事会からは教授会としての意見を求められると思いますので、今後短期間の間で、非常に密で大事な話をしていかなければならない日程になろうかと思っております。最終的には3月末の理事会、評議員会において決定になると思いますが、この事業は本学の将来展望を考える上で特段に重要な案件であります。将来的な少子化の中で、本学においても受験生は減少傾向にあります。しかし、受験者全体の人口が減り、歯科医療に対する魅力が十分に伝わっていない現状の社会を考えれば自

然なことなのかもしれません。今後、時代によって歯科医療の魅力は変化が出てくると思いますが、人口については予測が出ており、変わるものではありません。校舎の立地条件は、受験生にとってかなり重要な点でもありますので、そのような点を踏まえた検討が極めて大切になってくると思います。この件が創立120周年のメインの記念事業になろうかと思えます。

さて、平成20年1月10日、井上 裕理事長の史料室を水道橋、法人の一部の部屋に開室致します。井上理事長は歯科医師であります。主たるご活躍の場は政界でありました。歯科界へのご尽力ももちろんありましたが、文部大臣、参議院の議長と要職を歴任され、極めて広範なご活躍をされてきました。東京歯科大学が輩出した人材ということで、今の時代に史料をきちんとしておきたいという経緯から今回の史料室の開室に至りました。高山紀齋先生や血脇守之助先生の史料を今収集しようと思っても、やはりそう簡単にはできることではありません。その時代、時代によってそれぞれの史料の持つ意味合いもありますので、その時に収集することが一番確実性が高いのです。貴重な史料は、時代を写す鏡になります。井上理事長からは戦時中、先生が本学の学生だった時のノートなど、あるいは市場価値のあるたくさんの物をご寄付頂きました。皆さんも機会があれば是非ご覧になっていただきたいと思えます。

最後になりますが、小泉純一郎元内閣総理大臣が「野口英世アフリカ賞」を設立致しました。この賞はアフリカでの医学研究・医療に貢献した世界中の候補者の中から選考するもので、受賞者は2名、賞金は各1億円というノーベル賞に匹敵する額です。賞金の原資は政府の資金に加え、国内外のご寄付も募るとするのが小泉元総理の方針で、個人一口1,000円から団体は一口10万円という内容です。なお、本学から設立委員には高添一郎名誉教授、審査委員には奥田克爾教授が就任されております。野口先生は血脇先生の物心両面のご援助を得て世界で活躍したわけですが、注目する点として、血脇先生が教育・医療事情の視察を目的として長期間アメリカに滞在した時期がありました。この時に血脇先生を付きっきりで案内し、お世話をしたのが野口先生なのです。帰国後、血脇先生はその視察で学んだことを歯科教育にそして歯科医療に大いに反映させました。ですから、このような意味からも野口先生は歯科界にも非常に大きな影響を及ぼした人物であるといっても過言ではありません。私も募金委員の一人となっており東京歯科大学として100万円を寄付したいと考えております。一口1,000円ということですので、是非皆さまに、この面での浄財をご寄付願いたいと思えます。

本年度、他大学と比較した本学の教育・研究や財務など多面的な実態を調べたところ、非常によいシチュエーションでありました。それは、皆様の力そのものであり、この勢いで現在を乗り切っていくと考えております。皆様には本年もご尽力をお願いし、健康で一年を無事に過ごしていただきたいと思えます。以上で新年のご挨拶とさせていただきます。



学内ニュース

博士(歯学)学位記授与

第568回(平19.12.12)授与

第547回(H18.1.25)合格

山本茂樹(保存・甲)第1654号・甲950号

第549回(H18.3.15)合格

吉野正泰(ホリソウシ・甲)第1681号・甲976号

第560回(H19.3.14)合格

堺健太郎(保存修復・甲)第1731号・甲1012号

第560回(H19.3.14)合格

鈴木憲久(口外・甲)第1738号・甲1018号

第569回(平20.1.16)授与

第548回(H18.2.15)合格

伊藤英美子(歯麻・甲)第1663号・甲959号

第548回(H18.2.15)合格

大野建州(歯麻・甲)第1664号・甲960号

日本抗加齢医学会専門医・指導士に3名が認定

日本抗加齢医学会専門医・指導士に千葉病院から3名が認定された。本学職員による同学会専門医の取得は千葉病院初、指導士は本学初となる。専門医には口腔外科学講座の笠原清弘講師、クラウンブリッジ補綴学講座の野本俊太郎助教が、指導士には秋葉順子主任歯科衛生士が認定された。平成19年7月22日に、所定の研修単位を取得した者を対象に認定試験(於：国立京都国際会館)が行なわれ、合格者は平成20年1月1日より正式に認定となっている。

同学会はオーラルメディシン・口腔外科学講座の山根源之教授が評議員を努め、抗加齢医療の促進ならびに普及を図ることを目的に、平成

17年度より専門医・指導士制度を発足させている。口腔外科、補綴科をはじめとする歯科領域は日常臨床でアンチエイジング医学と関連するケースが多く、また術前術後の口腔ケアやMFTなど、歯科衛生士がこの分野で果たす役割は大きい。今後はアンチエイジング医学の分野でも東京歯科大学が歯科界をリードしていくことが期待される。

市川総合病院 教職員親睦旅行実施

市川総合病院教職員の親睦団体である木曜会主催による、恒例の親睦旅行が教職員多数参加のもと実施された。

例年と同様3班に分かれ、第1班は10月27日(土)~28日(日)、第2班は11月3日(土)~4日(日)、第3班は11月10日(土)~11日(日)の日程で、東北方面への旅行となった。

各班とも、初日は東京駅より新幹線「こまち」に乗車して一路東北へ。紅葉を楽しみつつ、観光地を散策をしたり温泉につかり、夜の大宴会では郷土料理を楽しみつつ、職種の違う者同志が、それぞれ盛り上がり大変楽しく、そしてくつろげた親睦旅行であった。

石原和幸准教授日本歯周病学会学術賞を受ける

微生物学講座石原和幸准教授は、9月21日(金)から東京国際フォーラムで開催された第50回日本歯周病学会記念大会(大会長山田了教授)において、2007年度の日本歯周病学会学術賞を受けた。研究内容は、慢性歯周炎局所から共に高頻度で分離される*Treponema denticola*表層のユニークなプロテアーゼに関する研究や*Porphyromonas gingivalis*感染予防ワクチン開発戦略である。*T. denticola*の酵素は、outer sheathと呼ばれる*Treponema*特有の表層被膜を形成するタンパク形成にも関与し、炎症性IL-1, TNF, IL-6のサイトカインを産生誘導と分解に関わり、補体の第三成分の活性化による多型核白血球からの活性型MMP-9の遊離を誘導することにより免疫を攪乱し、これが歯周病原性への関与を示したものである。*P. gingivalis*表層のgingipainは、その病原性に重要な



認定証を手にする秋葉主任歯科衛生士(左)、笠原講師(中央)、野本助教(右)

役割を果たしている。そのうちrgpA, kgpは、それぞれ活性ドメインに加え付着/赤血球凝集ドメインを持っている。rgpA DNA vaccineを作成し、接種により血清IgGや唾液IgAを誘導できること、および*P. gingivalis*による膿瘍形成、致死毒性及び歯槽骨吸収作用に対して防御効果を示すことを明らかにしたものである。

石原准教授は、本学HRCでもきわだった研究業績を上げ、海外での評価も高く、今回の歯周病学会学術賞の受賞はそれらを裏付けるものである。



山田大会長から表彰される石原准教授

平成19年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

平成19年11月15日(木)～16日(金)および平成20年1月23日(水)～24日(木)の2回にわたり、「平成19年度東京都エイズ診療従事者臨床研修」が開催された。この研修は、水道橋病院が東京都より委託を受け、都内の医療機関でエイズ診療に従事する方々を対象に行っているものである。9回目にあたる今年度の受講者は、11月・1月各6名の合計12名であった。

研修は、柿澤卓水道橋病院長をはじめ、口腔外科、総合歯科のスタッフが講義・実習を担当した。また、11月15日には上野泰弘先生(東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課)、1月24日には今村顕史先生(東京都立駒込病院感染症科)を講師にお迎えし、「エイズ診療の基礎知識」として、専門医の立場から貴重な講義をいただいた。お二人の講義は、本院の臨床研修歯科医も聴講させていただいた。その他の講義では、感染者への歯科治療における注意点および感染予防対策、スタンダード・プリコーションの理念および具体的な取り組み等を学習した。また、CCR

(クリーンケアルーム)において、感染予防対策の実習およびHIV患者の治療見学等を行った。

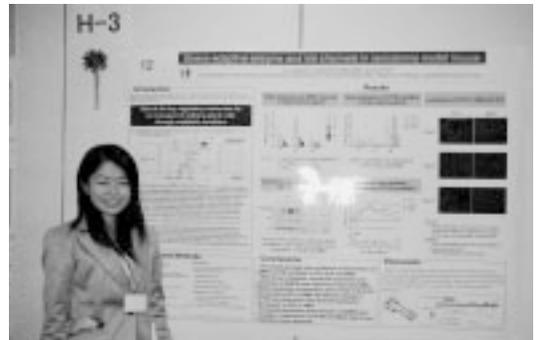


CCRでの実習風景、平成20年1月23日(水) 水道橋病院CCR

第5学年 樋口はる香さん、IADR Hatton Award日本代表に

田村洋平大学院生 JADR学術奨励賞受賞

第55回国際歯科研究学会日本部会(JADR)が、平成19年11月17日(土)と18(日)に鶴見大学記念会館で開催された。学会前日の16日(金)にIADR Hatton Travel Award日本代表候補者の選考会が行われ、第1次審査を通過した10名の候補者



IADR Hatton Award 日本代表に選ばれた樋口はる香さん：平成19年11月17日(土) 鶴見大学記念会館



受賞した田村洋平大学院生：平成19年11月18日(日) 鶴見大学記念会館

が、英語による発表・質疑応答形式の第2次審査を受け、樋口はる香さん(第5学年)が、5名の日本代表の1人に選ばれた。これにより、7月にトロントで開催されるIADR大会本選に臨むこととなった。演題は「Stress-adaptive Enzyme and Ion Channels in Xerostomia Model Mouse」で生化学講座で行っている研究である。本賞は第10代IADR会長のEdward Hatton 博士の功績を称えて設けられた若手研究者を顕彰するための賞である。本選での活躍に期待したい。

また同学会において、田村洋平大学院生(歯科麻酔学講座)が発表した“Oral Structure Representation in Human Somatosensory Cortex”が審査員の厳しい評価のもと、見事学術奨励賞を受賞した。本賞は、38歳未満の若手研究者に与えられる賞で、本学では第52・53回大会以来の受賞者である。JADRは、国際歯科研究学会(IADR)のDivisionであり、全会員中アメリカ部会に次ぐ第2番目の会員数を擁する大きな部会であり、国際的に活発な学術活動が繰り広げられている。今後も、学部生・大学院生をはじめ若手研究者には是非応募して頂きたい。

奥井沙織歯科衛生士 学術発表優秀賞を受賞

日本歯科衛生学会第2回学術大会が、平成19年11月23日(金)から24日(土)に、福岡市の都久志会館・福岡ガーデンパレスにて開催された。この学会は、38回の歴史がある日本歯科衛生士学術大会が前身であり、歯科衛生士が主体となって平成18年に設立された学会である。

「口腔がん患者に対する歯科衛生士の関わり-専門的口腔ケアによるがん緩和療法への取り組み-」と題する口演発表で、市川総合病院の奥井沙織歯科衛生士が演題100題の中から最高評価を得た。口腔がんセンターでは、口腔がんの診断から治療、そして経過観察の時期を含めて歯科衛生士が関与しているが、歯科衛生士の立場から継続的な専門的口腔ケアを行うことは、心理的ケアも含めた口腔機能の回復、患者のQOLの向上に貢献できるものと考え、がん緩和療法の一つとして、その役割は非常に大きいものと思われる。

なお共同演者は、山根源之口腔がんセンター長、山内智博講師、岡崎雄一郎助教と、市川総合病院歯科・口腔外科、藤平弘子主任歯科衛生士、馬場里奈

歯科衛生士、前田 愛歯科衛生士、高柳奈見歯科衛生士、清住沙代歯科衛生士、雨宮朋美歯科衛生士、大屋朋子歯科衛生士、多比良祐子歯科衛生士である。



受賞した奥井歯科衛生士 金澤紀子日本歯科衛生学会 会長とともに：平成19年11月24日(土) 福岡都久志会館

平成19年度第5回水道橋病院教職員研修会開催
平成19年12月3日(月)午後5時30分より、水道橋橋舎血脈ホールにて平成19年度第5回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「医薬品及び医療機器の安全管理」と題して、水道橋病院医薬品安全管理者の高野正行准教授並びに水道橋病院医療機器安全管理者の福田謙一准教授が講演した。

平成19年4月1日からの医療法等の改正により、医療に関する情報の提供、医療の安全、病院等の管理などの内容が制定されたが、これに伴って水道橋病院においても医薬品安全管理委員会が設定された。同委員会では医薬品の安全管理体制の整備の一つとして、平成19年6月1日までに「医薬品の安全管理のための業務手順書」を作成して各部署に配付した。この手順書の中には同委員会の教育・研修活動の一環として、医療従事者ならびに担当者の安全に対する意識、医薬品の安全な取扱い・管理を目的とした知識・技能、さらにチームの一員としての意識向上、安全管理の基本的考え方や具体的方策についての研修を定めている。

高野准教授は、新たに作成した手順書の内容の概要を提示した上で、それに沿って医薬品の採用・購入、医薬品の管理、医薬品の投薬指示から調剤・与薬・服薬指導、医薬品の安全指導に係る情報の取り扱い、病院や薬局等の他施設との連携の手順などについて説明した。特に麻

薬などの規制医薬品の管理、病棟・手術室での医薬品管理、歯科領域の医薬品の管理体制等については各現場において重点的かつ具体的に整備しているとのことであった。

また、福田准教授は、平成14年の厚生労働省の医療安全推進総合対策の策定以来の平成17年の薬事法改正、平成19年の医療法一部改正と続く最近の医療制度改革の概要とそれによって行われなければならない医療器の安全管理について説明した。機器の始業時・終業時は点検を実施する他、定期的な保守点検の実施、そしてそれらの記録を保存しなければならないことが示唆された。



講演する高野准教授：平成19年12月3日（月）、水道橋校舎血脇記念ホール



講演する福田准教授：平成19年12月3日（月）、水道橋校舎血脇記念ホール

市川総合病院 木曜会クリスマス会開催

市川総合病院教職員の親睦団体である木曜会主催による、年末恒例のクリスマスパーティーが、平成19年12月7日（金）に、浦安ブライトンホテルにて開催された。

例年、多くの教職員の参加を得て開催されており、会食、歓談の後、恒例の出し物大会は大いに盛り上がった。それぞれのグループが勤務

終了後、夜遅くまで一生懸命に練習した成果を披露し、工夫を凝らした出し物が続く中、7階西病棟チームの優勝となった。職種を問わず親睦を図りつつ、盛会のうちに終了した。



優勝した7階西病棟「ウキザエル」の皆さん：平成19年12月7日（金）、浦安ブライトンホテル

平成19年度（第38回）千葉県私学教育功労者表彰を受ける

市川総合病院 主任薬剤師 中内 みち氏

市川総合病院 看護師長 三宅 康子氏

市川総合病院 准看護師 横井 ナツエ氏

この表彰は、千葉県内の私立学校の教職員として長期間従事し、特に功労があった者として各学校から推薦された候補者の中から選ばれるものであり、今回、本学からは当該者3名を推薦した結果、表彰されることとなった。

中内氏は、薬剤師として32年間にわたり従事し、市川総合病院の薬局業務を支える役割を担ってきた。また、院内の薬事委員会並びに治験審査委員会、倫理委員会においては委員会のとりまとめをするなど、薬剤師のみならず各診療科の部長や医師、他業務の職員からも絶大なる信頼を受け、病院の発展に貢献している。

三宅氏は、看護師として31年間にわたり市川総合病院に勤務している。現在は、看護師長として病棟勤務に携わり、優れた看護師をまとめる能力と、勤勉で責任感が強い仕事ぶりは誰もが認めるところである。部下および他業務の職員からも尊敬され、その温厚で誠実な性格により、患者からの信頼も厚い。

また、横井氏は、准看護師として21年間にわたり市川総合病院に勤務している。熱意を持った仕事ぶりや、裏方として、多忙にも関わらず苦言も呈さず黙々と努力する姿は、職員の模範

となっており、看護管理者からも高く評価されている。

以上のように、本学から推薦した3名の貢献してきた功績が高く評価され、今回の表彰となったものである。



表彰を受けた中内主任薬剤師：平成19年12月8日(土)



表彰を受けた三宅看護師長：平成19年12月8日(土)



表彰を受けた横井准看護師：平成19年12月8日(土)

モスクワ国立医科歯科大学とのオンライン・ビデオ会議

平成19年12月10日(月)午後4時半から、千葉校舎第1教室においてモスクワ国立医科歯科大学との間に第1回のオンライン・ビデオ会議が行われた。

同校とは平成19年6月に本学との間で姉妹校協定が締結されているが、井上 裕理事長、金子 譲学長、井上 孝国際渉外部長が訪露して締結式に臨んだ際に、同校からオンライン・ビデオ会議開催の打診があった。かねてから東京歯科大学ではビデオ会議に対応するインフラ整備を行ってきたが、10月に千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎間でのビデオ会議システムの構築が完了したことから、今回はじめて海外との交信を試みる機会となった。同日のビデオ会議本番に先立ち、10月24日(水)、12月5日(水)の二度にわたって両校間でリハーサルが行われ、念入りな調整を経て今回の会議は実現した。

モスクワ側からはYanushevich総長、Rabinovich副総長をはじめとして、通訳ほか約40名の関係者が参加し、本学からも金子学長以下約30名の聴衆が会場に集まった。Yanushevich総長の挨拶に始まった会議は、金子学長がその後を引き継いで東京歯科大学の歴史をたどるプレゼンテーションが行われた。続いて千葉病院口腔インプラント科の矢島安朝教授によって、千葉病院口腔インプラント科における診療と研究がムービーで紹介された。

その後、ロシア側からはIvanov教授によるロシアにおける歯科インプラント治療の沿革と現在の診療についての報告があり、またモスクワの東方約300kmにあるNizhny Novgorod市の歯科病院とも同時三元中継を行い、Durnovo歯科医師による同病院における歯科インプラント治療の現状についての紹介があった。

90分の会議は滞りなく終了したが、8000kmの距離を感じさせない臨場感に、参加者はみな驚いていた。これからますます盛んになる海外姉



8000kmの距離を結んだオンラインビデオ会議の様子：平成19年12月10日(月)、千葉校舎第1教室

妹校との交流において、ビデオ会議が新しい可能性を拓くひとつの手段となることを、改めて認識したイベントだった。

第69回歯科医学教育セミナー開催

平成19年12月10日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第69回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新しい歯科医学教育への挑戦 - メリーランド大学歯学部を訪問して - 」と題し、金子 譲学長、佐野 司教授、渡辺 賢法人庶務課員より説明が行われた。

まずはじめに、金子学長よりメリーランド大学歯学部訪問の趣旨について説明があった。本学及び日本の歯科大学が抱えている問題として、入学定員の削減、国家試験の難度化、就職問題、大学運営の難しさ等が挙げられるが、今回訪問したメリーランド大学歯学部は、1840年に設立された世界で初めて歯科のできた歴史ある大学で、近年新しい校舎を建築し、新しい教育を実践している大学であることから、本学にとって参考となることを学ぶため、平成19年10月8日、9日の日程で訪問したとのことである。

次に、佐野教授から施設の概要及び新しい校舎の建築にかかった費用、建築に係わる補助金および寄付金について、また、学生が勉学に集中できるよう配慮された建物の空間の取り方、そして、入学試験、納付金、学習環境、IT化、病院の運営、財務状況等について説明があった。また、渡辺法人庶務課員からファウンダーウィークについて説明があった。ファウンダーウィークとは、メリーランド大学医学部が1807年に創立し、200周年を迎えたことを祝い開催されたもので、町を挙げお祝いしている雰囲気、パーティーで

は学長及び各学部長からの今後の所信表明、寄付金の目標額等が掲げられたとのことであった。

最後に、スローラー学部長から本学及び日本の歯科教育改革者に向けた改革へのメッセージとして、「痛みを伴わない変化は改革ではない、改革は痛みを伴うものであるとのことと、寄付金、助成金等の獲得に際しても人と同じことをしては駄目であり、人が考え付かないことをすることが大事である」等の言葉をいただいた旨、報告があった。当日は140名近い参加者が集まり皆熱心に耳を傾けていた。

水道橋病院クリスマスコンサート開催

平成19年12月13日(木)午後6時より、水道橋病院4階待合ホールにて、水道橋病院医局員等によるクリスマスコンサートが開かれた。年の瀬を病室で過ごす患者さんに楽しんでもらうため、音楽で一足早いクリスマスプレゼントをしようと企画されたこのコンサートは、今年で3回目を迎えた。演奏メンバーは、水道橋病院の医局員4名に千葉病院の医局員1名を加えた5名で、「ホワイト・クリスマス」「そりすべり」などクリスマスソング5曲を演奏した。演奏後にはアンコールが上がり、急遽もう1曲演奏するハプニングもあった。

当日は、入院患者さんをはじめ、多くの教職員も演奏に耳を傾けた。5名の熱演に、笑顔の聴衆からは大きな拍手が贈られ、待合ホールには和やかな温かい雰囲気が広がった。

【演奏メンバー】

フルート：関根亜理紗レジデント(口腔外科)
サックス・キーボード：大串圭太大学院生(口腔健康臨床科学講座)



説明する佐野教授：平成19年12月10日(月)、千葉校舎第2教室



クリスマスコンサート風景：平成19年12月13日(木)、水道橋病院4階待合ホール

ヴァイオリン：大田 恵臨床研修歯科医(水道橋病院)

打楽器：小林弥生レジデント(口腔外科)

キーボード：弓井恵里臨床研修歯科医(千葉病院)

特色GP・現代GPフォーラム開催

平成19年12月22日(土)午後1時より水道橋校舎血脇記念ホールにおいて東京歯科大学特色GP・現代GPフォーラムが開催された。「ICTを活用した教育改善～歯学教育での取組～」をテーマとして、独立行政法人メディア教育開発センター・社団法人私立大学情報教育協会・日本歯科医学教育学会の後援をいただき、公開フォーラムとして開催した。当日は学内外から132名の参加者があり、本学のGP事業への関心の高さが伺えた。

当日は金子 譲学長の開会挨拶、小田 豊教務部長の開催の趣旨に続き、「態度・技能領域へのICTの利用」「e-LearningによるSelf Learning推進」の2テーマについて事例発表およびディスカッションが行われた。

セッション 「態度・技能領域へのICTの利用」では歯科麻酔学講座の一戸達也教授の司会の下、「医歯学シミュレーション教育システムの構築と活用」について東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔疾患予防学分野の木下淳博教授が、「IT環境下でのOSCE再評価システムの構築」について本学解剖学講座の阿部伸一准教授が、「IT環境を利用した心肺蘇生法の技能評価」について本学歯科麻酔学講座の松浦信幸助教が発表した。セッション 「e-LearningによるSelf Learning推進」では歯科医学教育開発センター主任の河田英司教授の司会の下、「WebベースPBL支援システムの構築と運用」について昭和大学歯学部口腔組織学教室の馬谷原光織助教が、「歯科大学におけるIT化への全学的取組」について松本歯科大学教育支援センターの音琴淳一教授が、「系統科目の連携による統合的e-Learning Programの構築 - インプラント学を中心に - 」について本学口腔インプラント学研究室の矢島安朝教授が、「統合的e-Learning Programのシステム構築」について本学歯科医学教育開発センターの村上 聡助教が発表した。

「医歯学シミュレーション教育システムの構築と活用」については東京医科歯科大学で開発されたコンピューターとの対話により、診療を疑似

体験できる医歯学シミュレーション教育システムについて説明された。「IT環境下でのOSCE再評価システムの構築」については、OSCEにおいて態度を評価する2人の評価者間における評価の不一致項目について、他の評価者が再評価を行うことのできるシステムについて説明があった。「IT環境を利用した心肺蘇生法の技能評価」については、心肺蘇生実習時にシミュレータから得られるデータを連続的にPCに取り込みグラフ化し、加えて実技時映像を同時に記録することが可能なシステムについて説明があった。

「WebベースPBL支援システムの構築と運用」については、昭和大学のPBLチュートリアルで利用しているPBL支援システムについて説明された。「歯科大学におけるIT化への全学的取組」については、松本歯科大学でのIT活用の一環としてのウィークリーテストの作成、データ処理ならびに開示方法及び学習効果について説明された。「系統科目の連携による統合的e-Learning Programの構築 - インプラント学を中心に - 」、「統合的e-Learning Programのシステム構築」については、本学で開発しているe-



「IT環境下でのOSCE再評価システムの構築」について発表する阿部准教授：平成19年12月22日(土) 水道橋校舎血脇記念ホール



フォーラムディスカッション：平成19年12月22日(土) 水道橋校舎血脇記念ホール

Learning Programのシステム概要、この取組で作成された教材の中からインプラント学に関する教材、学生が統合的コンテンツに関する有機的連携を容易に行えることができるトピック空間について説明があった。

2つのテーマに対し、発表後に行われた「フォーラムディスカッション」では、多くの質問、意見があり、今後の特色GP・現代GP事業推進において貴重な検討の場となった。最後に井出吉信副学長の閉会挨拶で締めくくり、午後5時盛会の内に終了した。

「平成19年仕事納めの会」実施

千葉校舎「平成19年仕事納めの会」は、午後1時から厚生棟1階食堂において開催された。会場は多くの教職員、大学院生、臨床研修歯科医等で埋め尽くされ、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、金子 譲学長から挨拶が述べられ、引き続き薬師寺 仁副学長の発声により一堂乾杯し、一年間の労をねぎらうとともに和やかに懇親を深めた。懇談の後、永井 隆夫事務局長の中締めにより締めくくられた。

市川総合病院では、午後4時30分から講堂において開催された。金子学長、安藤暢敏病院長からの挨拶の後、金子学長より、文部科学大臣表彰、千葉県私学教育功労者表彰が披露され、続いて安藤病院長より感謝状の贈呈が行われた。山根源之副病院長の発声により乾杯し、和気藹々のうちに懇親が行われた。

水道橋校舎では午後6時より御茶ノ水のホテル聚楽にて、熱田俊之助常務理事、歴代の水道橋病院長の先生方、金子学長、薬師寺副学長、井出吉信副学長をお迎えし、水道橋病院・法人



挨拶をする金子学長：平成19年12月28日（金）千葉校舎厚生棟

事務局の教職員が一堂に会して開催された。会の冒頭で柿澤 卓病院長、金子学長よりご挨拶をいただき、続いて熱田常務理事の発声により乾杯した。参加した教職員は終始和やかな雰囲気の中で懇親を深め合い、槇石武美副病院長の中締めによりお開きとなった。



挨拶をする安藤病院長：平成19年12月28日（金）市川総合病院講堂



挨拶をする柿澤病院長：平成19年12月28日（金）御茶ノ水・ホテル聚楽

平成19年度「NHK歳末たすけあい募金」実施
年末恒例の「歳末たすけあい募金」は、平成19年度も千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎の3施設において、12月初旬から年末までの日程で実施された。

なお、集められた募金は、すべて「NHK歳末たすけあい義援金」として寄付された。募金は共同募金会を通じて、国内の援助を必要とする子どもたちや体の不自由な方々、そして介護を必要とするお年寄り、福祉施設などにおくられる。

「平成20年仕事始めの会」実施

千葉校舎では、午前9時から講堂において教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、金子 譲学

長による年頭の挨拶が行われた。

市川総合病院では、午後4時30分から講堂において開催された。金子学長、安藤暢敏病院長より、市川総合病院教職員に対して年頭の挨拶があった。森下鉄夫副病院長の発声により一同乾杯の運びとなり、市川総合病院の一年の幕開けとなった。

水道橋校舎では午後6時より血脇記念ホールにて、水道橋病院・法人事務局の教職員の出席のもとに開催された。はじめに柿澤 卓病院長より年頭のご挨拶があり、続いて金子学長より、挨拶ならびに創立120周年記念事業について実施に至る経緯、現在の検討状況を詳細に説明され、同事業における水道橋病院の位置づけと方向性を踏まえて、質の高い医療を実践する病院であって欲しいとの激励のお言葉をいただいた。

第260回大学院セミナー開催

平成20年1月9日(水)午後6時より千葉校舎第1教室において、第260回大学院セミナーが開催された。今回は明海大学歯学部歯科生体材料学分野の中嶋 裕教授を講師にお迎えして「健康科学における予防器材 - 予防充填材」と題する講演をうかがった。

咬合面の小窩裂溝部を物理的に覆うことによって齲蝕を予防する考え方は19世紀末から行われて来たが、Buonocore(1955年)がエナメル質へ酸エッチングによりアクリル系レジンに歯質に接着させる方法を開発したことが予防充填材(小窩裂溝封鎖材,シーラント材)の大きな転換点であったこと、現在は接着性モノマーの含有とフッ素徐放性を特徴とするシーラント材料が使用されているものの、その効果については臨床研究と疫学



講演される中嶋教授：平成20年1月9日(水) 千葉校舎第1教室

研究によるエビデンスが必要とされている、など予防充填材の開発とその経緯を研究手法と共に紹介された。大学院生をはじめとする参加者の研究意欲を刺激する有意義なセミナーであった。

第261回大学院セミナー開催

平成20年1月18日(金)午後6時より千葉校舎第1教室において、第261回大学院セミナーが開催された。今回は広島大学病院 口腔検査センターの小川郁子診療准教授を講師にお迎えして「唾液腺腫瘍の病理」と題する講演をうかがった。

唾液腺の実質に由来する腫瘍(唾液腺腫瘍)は、全腫瘍の約1%、悪性腫瘍では頭頸部癌の約6%を占めるに過ぎず、まれな疾患といえる。しかし唾液腺腫瘍は、その生物学的態度の違いと組織学的多様性を反映して、病理診断はしばしば困難である。この腫瘍は現在、多くの組織型に細分されWHO国際分類(2005)では37種類の腫瘍型に分けられている。本セミナーでは、これらの症例を提示しながら、臨床的特徴および組織学的特徴について詳細に解説していただいた。さらに、唾液腺腫瘍の組織診断が難しい要因として、多彩な組織構築・細胞形態が1つの腫瘍型の中に混在すること、異なる腫瘍型に共通する組織構築・細胞形態が存在すること、細胞異型が明らかでない悪性腫瘍が多いこと、などが指摘された。臨床的な示唆に富んだ大変内容の濃い有意義な1時間のセミナーであった。



講演される小川准教授：平成20年1月18日(金) 千葉校舎第1教室

市病フォーラム 第12回市民公開講演会開催
市川総合病院において毎年度開催している市病フォーラム委員会主催による市民公開講演会が、平成20年1月19日(土)午後2時から、市川総

合病院講堂において開催された。

脊椎・脊髄病センター開設1周年記念フォーラムとして、「『すこやかに年を重ねて』～関節・運動器の痛み～」と題し、次の各テーマに分け、それぞれに講演者を立て、実行委員長である白石 建整形外科部長の司会進行のもと行われた。

1.「関節リウマチ」

高橋正憲教授(リハビリテーション科部長)

2.「膝と股関節の痛み」

堀田 拓講師(整形外科)

3.「顎の痛み - 顎関節症について - 」

佐藤一道助教(歯科・口腔外科)

4.「腰痛と肩こり」

白石 建教授(整形外科部長)

5.「関節と背骨の痛みのリハビリテーション」

堂前 伸理学療法士

また、特別招待講演として、東海大学名誉教授で肩関節疾患の世界的権威である福田宏明先生に「50肩」と題してご講演いただいた。患者とともに歩み続けた臨床医としての熱のこもったご講演に、参加者全員が引き込まれるようにして耳を傾けていた。



開会の挨拶をする白石実行委員長：平成20年1月19日(土)、市川総合病院講堂



特別講演をされる福田名誉教授：平成20年1月19日(土)、市川総合病院講堂

各講演の合間にはフロアからの質問もあり、講堂に入りきれずにビデオで中継した第二会場への入場者を含め、参加者数200名を越えた市民講演会は盛会のうちに終了した。

第70回歯科医学教育セミナー開催

平成20年1月24日(木)午後6時より千葉校舎第2教室において、第70回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「国家試験の改善方向と共用試験CBT」と題し、金子 譲学長、石井拓男千葉病院長、小田 豊教務部長より説明が行われた。

まずはじめに、金子学長より今後の国家試験の主たる改善点と本学の対応について説明がなされた。国家試験の主たる改善点とは、高齢化社会及びそれに伴う社会的要請に応え、基礎系・臨床系科目単独の知識を問う設問だけではなく、臨床実習での学習成果を踏まえた試験問題が出題されるとのことである。それに対する方策として、きめ細かい修学指導に基づいた登院実習教育の充実(カリキュラムの再構築、登院期間の再検討、登院時期の教育及び評価方法の再検討、基礎講座教員の臨床参加等)を図ることと医局員教育を充実させていくことが必要である旨説明があった。

次に、石井千葉病院長より歯科医師国家試験制度改善検討部会での報告がなされた。平成22年度(第103回)歯科医師国家試験から、出題形式の見直し、合格基準の適正・厳格化、基礎と臨床との関連性を問う出題、社会的要請に対応した出題(高齢化対策、社会保障制度等)、臨床実地の配点重視等の改善がなされるとのことであった。また、受験資格についても受験回数に制限が設けられてきていることから、国家試験対策を今後より一層充実させていく必要がある旨説明があった。

最後に、小田教務部長より共用試験CBTの結果および今後の対策について説明がなされた。CBTの全国平均は5年間で約20点近く上昇し、本学も年々平均は上昇してきた。本学は常に全国平均を上回っているが、モデルコアカリキュラム別に本学と全国平均の差を見ていくと、項目によっては全国平均よりも低い項目もあるため、重点的に対処していく必要がある旨説明があった。今後、各科目のシラバス、授業においてコ

アカリを包含し、臨床の診察、検査、診断、治療の各段階で基礎的な知識も複合して学生が思考できるよう教授いただきたい旨説明、CBT実施時期についても検討していくとのことであった。当日はテレビ会議システムを利用したところ、170名近い参加者が集まり大変盛況であった。



説明する小田教務部長：平成20年1月24日（木）、千葉校舎第2教室

第262回大学院セミナー開催

平成20年1月25日（金）午後6時より千葉校舎第3教室において、第262回大学院セミナーが開催された。今回は立命館大学理工学部マイクロ機械システム工学科の高野直樹教授を講師にお迎えし、「顎骨海綿骨の微視形態と力学 - インプラント治療における術前検査のシミュレーションへの展望 - 」と題する講演をうかがった。

計算力学の最新研究成果であるマルチスケール解析をパイオメカニクスシミュレーションとして応用することにより、顎骨内の海綿骨が果たす力学的な役割を明らかにできる。さらに位相最適化手法による最適配置を導き出すことで、インプラント治療における術前シミュレーションにも応用可能であることが紹介された。大変内容の濃い有



講演される高野教授：平成20年1月25日（金）、千葉校舎第3教室

意義な1時間半のセミナーであった。

第263回大学院セミナー開催

平成20年1月28日（月）午後6時より千葉校舎第2教室において、第263回大学院セミナーが開催された。今回は鹿児島大学名誉教授の西川殷維先生を講師にお招きし、「認知障害治療薬の開発におけるアルギニンバゾプレシアナログの評価」と題する講演をうかがった。

西川先生は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学選考 生体機能制御講座歯科応用薬理学教授、さらに歯学部長を勤められ、昨年3月定年を迎えられた。今回は、バゾプレシアナログNC1900の認知障害改善効果に関する先生ご自身の研究成果と周辺の認知障害研究の状況について説明がなされた。NC1900はラットの危険回避学習能力を促進し、NMDA受容体を増加させ、グルタミン酸に対する感受性を上げ学習効率を上げる。CO2暴露による脳機能低下を回復させる。アラキドン酸カスケードに関与し、COX2の阻害による脳機能低下に対して救済効果を現わすなどの実験結果を挙げて、治療薬としての展望を披瀝した。講演内容は大変好奇心をもたせるものであり、興味の尽きない90分であった。



講演される西川名誉教授：平成20年1月28日（月）、千葉校舎第2教室

訃報 竹内光春名誉教授ご逝去



本学名誉教授竹内光春先生(衛生学講座)は、平成20年(2008)1月3日、肺炎のため逝去された。享年92。

竹内先生は、昭和12年3月東京歯科医学専門学校を卒業、昭和13年3月に東京歯科医学専門学校研究科終了後、補綴学教室助手、昭和14年4月口腔外科学教室勤務を経て、昭和15年1月に文部省委託を命ぜられ、その後、昭和33年7月まで文部省体育局で体育官補、文部事務官をお勤めになられた。昭和33年(1958)4月に本学の大学院歯学研究科創設のため東京歯科大学教授(口腔衛生学)その後、昭和37年(1962)4月には奥村鶴吉記念口腔衛生学教室創設にともない口腔衛生学教室主任教授となられた。昭和55年(1980)6月9日に定年退職され、東京歯科大学名誉教授の称号を授与された。社会、学会活動としては、日本口腔衛生学会常任理事や全日本健康優良学校表彰会中央審査委員(朝日新聞社)を永く勤められ、資源調査会専門委員、日本学校保健会常任理事、口腔状態分類統計委員会コンサルタント、日本学校歯科医会理事長などを歴任された。これらのご功績により昭和63年(1988)秋に勲四等旭日小綬章を叙勲された。そして本年1月には従五位の叙位を受けら

れた。

先生の世界的に誇れる画期的な業績の一つは、戦後まもなくはう蝕発病に及ぼす砂糖消費の影響は、歯の形成に強く影響するであろうと推定する全身説が優勢であったことに対して、砂糖が歯の萌出後に作用し齲蝕を起こすことを疫学的研究によって証明したことである。また、最も効果的なう蝕予防方法である小窩裂溝充填塞法を昭和38年(1963年)に発表し、昭和44年(1969年)11月にパスレジン(商品名)を世界で始めて発売したことである。これらの研究成果はわが国の口腔保健の維持増進に大きく寄与した。

教育についても先生ご自身のお考えと文部省での勤務のご経験から、問題発見・解決学習の重要性を常に強調され、口腔衛生学実習に昭和38年(1963)頃から学生自らの問題発見による解決型の実習として“選択テーマ実習”を開始された。これは現在本学で行われているPBL学習と同じである。大学をご退職後のおよそ30年間は、“学び方”について先生のお考えをまとめておいでであった。

常に前向きで先見性をお持ちであった竹内光春先生に敬意を表し、心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(松久保 隆)

ベトナムCountrysideにおける医療援助報告

東京歯科大学唇顎口蓋裂チームは、日本口唇口蓋裂協会および日本口腔外科学会国際協力委員会のアジアにおける医療活動の一員として、平成6年より、ベトナム社会主義共和国における口唇裂・口蓋裂などを中心とした先天異常児に対する国際医療援助および技術指導に関わってまいりました。このような医療援助活動は、本学だけではなく、全国各地の歯科大学や公立・民間医療機関さらに諸外国からも医療チームが派遣され、ベトナム各地でのチャリティー手術のほか、手術器具や医療機器の贈呈が行なわれるものであります。本学の診療隊としては、口腔外科 内山健志教授が中心となって、平成8年から行われ、さらに平成11年度からは本学歯科麻醉学講座医局員が診療隊に加わり、カナダ・Dalhousie大学口腔外科医チームとともに毎年1回の活動を行い、現在に至っております。私自身は、平成12年度に初めて参加する機会をいただき、これまでに5度、ベトナムを訪問させていただきました。

これまでの援助活動は、主に南部ベトナムの中心都市であるホーチミン市のOdonto-Maxillofacial Centerを拠点に行なっております。同センターは歯科ならびに顎口腔領域の疾患を専門に扱う病院で、ホーチミン市周辺100kmをカバーしておりますので、南部ベトナムの各地から口唇裂口蓋裂などの先天異常患者が受診します。しかし、本活動は外務省政府開発援助(ODA)の一計画に組み込まれており、都市部以外の医療環境の充分でない地区での援助も行なうよう同省からの指示を受け、2年前よりその実現に向け、独自に現地調査をしてきました。国際医療援助を行う場合、その活動の性格上、医療ミスや医療事故は絶対に避けなければならない、安全かつ確実な手術が求められます。とくに、countrysideでの活動は1週間弱と短期間であるため、手術中および術後の不測の事態についても十分なバックアップ体制があること、術後の定期的フォローアップが的確におこなわれる医療施設が近隣にあることが前提となります。種々の調査の結果、平成17年度より、手術適応患者が多くかつ必要最低限の手術環境が整備されている南シナ海に面するファンティエット地区およびメコンデルタ最南端のチャービーン地区の病院を選定し、活動を行なうことになりました。countrysideにおける診療スケジュールは、まず初めに、手術を希望する患者すべての主訴、既往歴ならびに全身診査を含めた術前診査を行い、これをもとに、手術適応となる患者、かつ全身状態も良好で安全に手術を施行し得る患者を検討することから始まります。その後、これらの患者に対して手術日時、手術術式、周術期管理などの具体的な治療計画を立案します。手術日当日は、午前8時30分頃より、夕方4時過ぎまで手術を行います。1日に予定される手術件数は手術台1台につき約3件で、3台の手術台を用いて行なっております。平成17年度および18年度はファンティエット地区の病院で各々17名、15名の口唇裂口蓋裂患者を、また、本年度はチャービーン地区で18名の患者のチャリティー手術を行い、いずれの症例も重篤な合併症を併発することなく、無事終了しております。

口唇裂・口蓋裂は顎顔面に発生する先天奇形の中で最も頻度が高く、全世界で1年間に出生する口唇裂・口蓋裂児は約32万人いるとされております。そして、その3/4が適切な時期に手術が受けられないでいるともいわれております。近年、ベトナムはドイモイ(刷新)政策の効果により、経済的発展を遂げつつあります。しかし、口唇裂・口蓋裂に関する医療環境は決して恵まれているとは言えず、いままお貧困のため治療を受けられないでいる子供たちが数多くおります。また、先進的な医療技術の遅延や医療設備、専門医師数の不足などの問題も未解決のままです。このため、現地のわれわれ東京歯科大学チームへの期待は大きく、ベトナムを訪問する度に、今後、本学がこのような国際医療援助を継続して行なうことができ、かつ医療情報や医療技術の習得を熱望する途上国医師、医療スタッフに対しても積極的に門戸を開くことができるならば、東京歯科大学の国際化をより推進することに繋がるのではないかと感じつつ帰路につきます。

最後に、このような国際医療援助の機会を与えてくださいました金子 讓学長、口腔外科学講座 柴原孝彦主任教授、歯科麻酔学講座 一戸達也主任教授ならびに関係の方々へ深謝申し上げます。

(口腔外科学講座 講師 須賀賢一郎)



真剣な眼差しで手術見学をするベトナム人医師



術後患者の病室回診

海外交流

東京歯科大学「台湾同窓会」が発足

金子 譲学長は、台湾歯科医師会主催の「The International Conference of Oral Care for the People with Disabilities,2007」で講演・出席するため、平成19年12月14日(金)から18日(火)の日程で台湾台北市に出張した。出張期間中、台北市新北投温泉23行館で「台湾における東京歯科大学台湾同窓会」発足式(平成19年12月14日)が開催され、出席の機会を得ることが出来た。

発足式には、日本側から、金子学長、池田正一水道橋病院臨床教授(昭和39年卒、神奈川歯科大学教授) 廣内世英 平和学院校長、台湾側からは、林 崇民先生(昭54年大学院卒、歯科矯正学)、呂 玟諤(大学院3年生、解剖学)、蔡 鵬飛(大学院2年生、歯科麻酔学)、黄 明裕(大学院1年生、歯科麻酔学)、柯 文昌(大学院1年生、口腔外科学)、洪 榮杰(大学院1年生、臨床検査学)の9名が出席した。

続いて、発足祝賀会が行われ、金子学長より本会発足を祝して、同日付で初代会長となった

林 崇民先生に対して金子学長直筆の祝状が贈呈された。

今後の本会の活動として、これまでに本学を卒業した台湾の方(大学院卒業生7名、学部卒業生22名、専攻生修了者2名)に連絡をとり、平成20年末には第1回の同窓会を開催する予定である。なお、この同窓会は同窓会支部としての位置づけではなく大学が認めた任意の会である。



台湾同窓会発足後の記念撮影：平成19年12月14日(金) 台北市新北投温泉23行館

トピックス

文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」(大学改革推進事業)に参加

平成19年度から文部科学省が推進している標記のプログラムに本学が平成20年度より参加できることとなった。昨年度、本学もこのプログラムに申請する予定であったが、歯科単独での申請は困難であるという理由から見送られた経緯がある。しかしこの度、北里大学グループの「南関東圏における先端がん専門家の育成」プログラムに参加することが決定した。本プログラムは、大学院研究科において医師、歯科医師およびコメディカルスタッフを含むがん治療の専門家の養成を目的としたもので、全国18の担当大学のもと約70の共同大学が選定されていて、北里大学グループでは、慶應義塾大学、聖マリアンナ医科大学、東海大学、山梨大学、聖路加看護大学、首都大学東京、共立薬科大学、信州

大学、および本学で構成されており、従前の医科を中心としたプログラムに歯科医師による口腔がん専門家の育成が追加されることとなった。本学は歯科大学から参加する唯一の機関であることから、摂食・嚥下、口腔機能の回復を念頭に置き、歯科の特色を生かした人材養成プログラムを構築していく。なお、本プログラムは口腔外科、口腔がんセンター、市川総合病院を主体に歯科医師のみならず、歯科衛生士、歯科技工士への教育も含めて口腔がんのプロフェッショナルを本学大学院が育成していくこととなる。

市川総合病院「地域がん診療連携拠点病院」に指定される

厚生労働省の「第3次対がん10か年総合戦略」による、全国どこでも質の高いがん医療を受けることができることを目標としたがん医療の

「均てん化」政策に基づき、平成19年4月にがん対策基本法が施行された。がんによる死亡者を現在よりも20%減少させ、がん患者および家族の療養生活の質の向上を目標に、医療機関の役割分担とネットワークの構築を図るため、各県に「都道府県がん診療拠点病院」、二次医療圏ごとに「地域がん診療連携拠点病院」を整備することになった。

地域がん診療連携拠点病院（以下「拠点病院」）の指定は、県からの推薦により厚生労働省が指定することになっており、市川総合病院は、昨年10月に申請し11月に千葉県からの推薦により、2月8日に厚生労働省から正式に指定された。

拠点病院としての指定要件は、各医療機関の専門分野における化学療法・放射線療法を含む集学的治療やセカンドオピニオン機能、クリティカルパスや緩和医療体制の整備、地域医療機関への相談支援機能や連携、院内外のカンファレンスの開催など研修体制やがん登録などの情報提供体制の整備状況などである。

市川総合病院におけるがん診療への取り組みや特徴など、とくに得意分野である口腔がんの治療、およびがん医療における専門的口腔ケア実践の状況など、今後の期待を含めて評価されたものと考えられる。

この指定はがん診療の一軍入りを意味し、それに応えるために市川総合病院では、麻酔科医、精神科医、看護師、薬剤師を中心とした緩和ケアチームの編成、院内がん登録システムの導入整備、また、がんに関する相談担当者としてMSW（メディカル・ソーシャル・ワーカー）を新たに採用し、地域がん診療連携拠点病院としての体制強化を着々と整えている。

「血脇守之助先生直筆書簡」の寄贈を受ける

このほど、黒崎紀正氏（東京医科歯科大学歯学部附属病院院長）より、「血脇守之助先生から黒崎先生の祖父である故黒崎博先生（大正2年本学卒、当時、栃木県歯科医師会会長）宛書簡」の表装額を本学にご寄贈いただいた。

この書簡は、血脇先生が日本歯科医師会会長を退任する際に贈られた感謝状と記念品に対する血脇先生直筆の礼状（昭和21年11月付け）であり、黒崎家において、60年余りの間、大切に保

管されてきたものである。本学では、血脇先生に関する大変貴重な史料として、大学史料室で保存し、広く閲覧に供することとしている。

平成19年12月13日（木）に黒崎紀正氏に対する金子譲学長からの感謝状が、永井隆夫事務局長より手渡された。



寄贈された血脇守之助先生直筆の書簡額



感謝状を手にする黒崎紀正氏（東京医科歯科大学歯学部附属病院院長室にて）

2007年の回想 & 2008年の抱負



犬飼 由理（歯科衛生士専門学校学生 第2学年）

2007年を振り返った時、私の人生で最も早く過ぎた1年だったと思います。入学した時はまだまだ先のことだと思っていましたが、4月に2年生に進級してから9月までは毎日が課題山積みでした。10月から臨床実習が開始し、実際に臨床の場に出て、私の知識不足、臨床の厳しさを実感させられる毎日でした。また班長を任せられ、班をまとめることの難しさや大変さを知りました。様々な課題や時間外の練習で休む間のない日々が続き、目の前のことをひたすらこなす毎日でした。つらい事、嫌な事もありましたが、その反面、ふとした時の人の優しさを実感することで、私は自分のことばかりではなく、相手の気持ちを考え、周りの人を思いやることの大切さを知りました。2008年はこの気持ちを大切に、笑顔で患者さんと接し実習に励みたいと思います。そして、知識と技術をしっかり身につけ、来年の卒業を目指してがんばりたいと思っています。

今井 崇之（口腔健康臨床科学講座 助教）

今年の春頃に、波乗りの仲間が海近に土地を買い、いいかんじに改造したコンテナハウスをGWに設置。毎週雑草と格闘し、夏には狂ったように向日葵を咲かせた。冬を迎え、白子BASEと名づけたこの基地は完成を迎えようとしています。

口腔外科は、今年一年はいろいろと大変な年でした。春頃はいろいろな問題から患者数も減りましたが次第に増えていき、今は忙しく、充実した日々をおくっているというか、マンパワー不足、カルテ書きなどでイライラする事が多くなってきています。来年に入退局する先生たちが、『口腔外科に残って良かった』と思えるような医局作りをしていかないといけないなと思っている今日この頃です。

浦井 俊夫（法人事務局経理課 課長）

時間を直線的に捉えるヨーロッパの人々に対し、日本人は円環的な時間観念をもつ。平成20年は、子=ネズミの年。「子」は冬至を含む旧暦の11月、時刻では23時から翌1時まで、方位では北。冬至は日照が最も短い日だが、その日から昼が長くなり、万物に陽気がさし、あらゆる力が躍動し始める日でもある。ネズミは神さまの思召しにに応じて一番に駆けつけた功で十二支のトップを飾ることになったという。農業神として大黒天の福をもたらす神使で、鼠算的な子孫繁栄の象徴でもある。毎年、年初の大願は成就しないまま、年忘れの師走を迎える。今年も回転リングの内を巡るだけとなるか、迷路のチーズを嚙れるか。悶死しないよう、門歯に磨きを掛けておこうと思う。

江口 貴子（歯科衛生士専門学校 助手）

私は、2007年の3月に歯科衛生士になりました。そして今、東京歯科大学歯科衛生士専門学校で働いています。学生の時と違うのはもちろんですが、学生への指導、患者さんへの対応や技術面などで社会人としての責任やプロフェッショナルとしての責任を改めて感じています。また、人に何かを伝える難しさを実感した1年でもあり、講義の進め方に関してもスキルアップの必要性を感じました。

そしてこの3月から歯科衛生士2年目を迎えます。2007年で感じた責任をしっかりと行動に移すと共に、何事にも積極的に取り組み、私自身のスキルアップも目指していきたいと思っています。

江橋 延江（市川総合病院 看護師長）

昨年はわたしにとって一生忘れられない年になっています。それは9月9日、救急の日。その夜

に怪我をしたことです。「まだまだ」と自分を過信したのがいけなかったのだと思います。自分で怪我をしてしまったという罪悪感から自力で自宅へ戻り、友人に車を運転してもらって病院を受診しました。下された診断は、右腕2箇所骨折、眼窩底骨折、下顎挫創。急な出来事にたくさんの方々にご迷惑とご心配をおかけしました。

去年の不運は怪我で全て終わりになったと思いい、今年2008年は気持ちをリセットして新しいことにチャレンジをしたいと思っています。好奇心旺盛なわたしですが、いつでも楽しく生き生きとした生活を送ることが目標です。今年もよろしくお願い致します。

海老原 環(口腔健康臨床科学講座 助教)

2007年はあつという間の一年でした。千葉の矯正歯科卒後研修過程を修了し水道橋にきて6年。レジデント(病院助手)から助教になり早くも3年の任期が終わろうとしています。昨年は歯科学報に症例報告を投稿し、ようやく日本矯正歯科学会の認定医も取得することができました。そういった意味では充実した年でした。その反面、診療ではスタッフの方々にご迷惑をかけてしまった事も多かったように思います。今年は初心の気持ちを思い出し臨床に教育にがんばろうと思います。

太田 茂(法人事務局人事課 課長)

日本経団連の調査では、平成19年3月に大学を卒業した学生の初任給が数年ぶりに増額になったという。景気回復や団塊世代の大量退職などが背景となり、就職活動も学生有利で「売り手市場」の時代になり、企業側が初任給アップで人材を奪い合ったことを示している。このことは平成20年3月に卒業する学生にも言えることで、学生は内定をいくつか持ち、各企業は内定者に逃げられないようにあの手この手で対応している。数年前まではなかったことで、学生にとっては少しの学年の差で運の差が出てしまう。

さて、本学の事務職員募集は、年齢制限は設けたが門戸を広げて新卒者に限らずに募集した。時期は九月であったが採用人員の20倍ほどの応募があった。大学職員の人気の高さが伺える。私は去年の6月に人事課に異動したばかりだった

ので、採用時の面接試験で緊張していたのは、応募者ではなく私の方だったかも知れない。

神尾 崇(歯科放射線学講座 助教)

2007年10月より口腔外科学講座から歯科放射線学講座へ移籍となり、新鮮な気持ちで新年を迎えることができました。今までの撮影、読影依頼する側から、今度は依頼される側に回り、これまで不勉強であった自分を改めて認識する毎日です。

今後は、より精度の高い診断・分析を目指すことはもとより、これまでに会得した歯科口腔外科学的な知識・技術をもって放射線学的観点からの最適な検査・処置方針の提案など診療支援の充実に努めたいと考えています。研究面では、専門領域である顎変形症分野でも充実を図りたいと考えています。これからも口腔外科をはじめ各科の皆様のご指導、ご鞭撻を頂ければと思います。

亀井 玲子(教養科目 研究補助員)

朝、通勤の車の中でよくFMを聴いています。好きな曲が流れていると気分は最高、今日もがんばろうという気が湧いてきます。最近は「のだめ」効果でクラシック音楽への関心が高まっているようですが、私は高校のときにオーケストラの生演奏を聴いて、その迫力に圧倒され、クラシック音楽にはまりました。大学では迷わず交響楽団に入ってバイオリンを始め、卒業後は先輩の誘いで市川交響楽団に入団して、現在に至っています。練習日である土曜の夜には、様々な年代・職業の人が集まって、皆で一つの音楽を作り上げていくことが大きな魅力であり、私の元気の素でもあります。自分で弾くことと名演奏を聴くことの二つを、今年も存分に楽しもう！と思っています。

木村 英晃(市川総合病院薬局 薬剤師)

薬剤師として医療に奉職し、13年目を迎えました。未熟ではありますが、私の思っていることを書いてみたいと思います。

2007年度ほど、「医療」についてクローズアップされたことはないのではと考えます。医療事故について、毎日のようにニュースに登場し、「医療不信」につながっております。残念なこと

に、「医療崩壊」という言葉も多く聞かれるようになりました。

医療の理念は、「Patient Safety」、「Patient Centered Medicine」であると思います。市川総合病院には、「愛と科学で済生を」という立派な理念があります。日々の多忙な業務の中で、患者様のことを常に考えているのかとの反省も出て、医療従事者の一人として責任を感じております。

医療については、経済性も考慮していかなければならない等、難しい問題があることも事実です。当院でも、DPC導入が近づいてきております。一朝一夕では解決出来ない課題が、山積しております。

しかし、最も大切なことは、医療人だけではなく、大学、附属病院に勤務する人達、国民全てが、「医療の現状と将来」について真剣に議論していかなければならないと考えております。そのような力の結集こそが、「より良い医療」への原動力となることを確信しております。

今後は、医療について考える機会を少しでも持つようにしましょう。「患者様と向き合い、より素晴らしい医療を」という強い思いをもって前進し、これからの医療界を大いに盛り上げていこうではありませんか。素晴らしい日本、そして世界が開かれることを願って。

小島 桂子（水道橋病院看護部 主任看護師）

2007年の「医療法改正」により、当院でも医療薬品の安全管理体制の整備、医療機器の保守管理を進めてきました。看護部でも、各部署ごとにマニュアルを見直すとともに、チェックリストを作成・実施しております。

ある日、車椅子の点検をし、タイヤに空気を入れていたら、患者様より「看護師さん、そんなことまでするの？」と声がかかり、「安全使用のた

めの点検なんですよ」と答えました。保守点検していることが、安全に安心して入院生活を送っていただくための1つの仕事であると理解していただいたようです。

現在、東京都の65歳以上の人口は239万人（19.2%）となり、今後益々増えていくでしょう。そこで、2008年の抱負としては、高齢者の医療に関心を持ち、勉強していきたいです。そして今後は、生活支援の必要性の高い高齢者の入院が増えていくと予測されますので、看護部皆で協力し、安全で安心できるケアや個々に合ったケアが提供できるよう努力していきたいと思います。

才藤 純一（千葉病院臨床検査部 臨床検査技師長）

昨年は、歯科医療に携わっている臨床検査技師にとって画期的な年になった。それは、我々の業務を位置づける「臨床検査技師・衛生検査技師に関する法律」の改正法案が48年目にしてようやく国会の衆参両議院で可決され、4月から正式に施行された。

今まで歯科医師が臨床検査技師の業務に係わりあう正式な法律がなかったが、今までの法律であった「臨床検査技師は医師の指導監督のもとに検査業務を行う」が、「臨床検査技師は医師、歯科医師の指示のもとに…」と改正され、私にとって歯科大学に勤めて永年の懸案であった歯科医師のもとでの業務が明確になった。

昨今、医療は医療安全が問われ、患者の医療への意識が高く、EBM（科学的根拠に基づく医療）が必須になっているなかで、診断に検査は欠かす事は出来ない。しかも、質の高い検査が求められる。

今年も検査部では検査技師が常に検査の精度保障に努めながら、歯科患者の全身管理や歯科医療が安全に行える全身状態の把握できる検査を目指している。

塩野目 隆幸（大学事務局会計課 事務員）

平成19年も時のたつのが早かった一年であり、一日が30時間あれば良いのと感じることも多々ありました。けれども実際に一日が30時間になれば、一日35時間だったらと、また贅沢なことを望んでしまうのだらうと思います。



昨年は初経験のことが結構ありましたが(この歳になって飛行機も初乗り)、その中の一つに、ある方から「硫黄島の戦い」についてお聞きする機会がありました。話題になった映画は観ておりませんが、初めてお聞きする内容は想像を絶し言葉を失いました。何とも言えないショックを受け、生まれた時代によってこんなにも置かれる立場が違うのものなのかと今の状況が当たり前ではないことにも気付かされました。今年も色々忙しくなるとは思いますが、普通に生活が出来る有り難さも頭の片隅に置きつつ、仕事上も私生活も充実した一年にしていきたいです。

島田 規男(水道橋病院総務課 用度係長)

2007年は水道橋病院に於いて、様々な面で変革のシーズンで皆バタバタの総バテバテでした。

委員会やら××検討会やら 準備委員会やらが立ち上げられ、名前を付けるのも、開催日調整するのも、大わらわでした。通常業務以外に会議の資料作成、議事録作成、通知・連絡etcを時間に追われながらこなさなくてはならず、そんなの関係ね！そんなの関係ね！「会議を無くす委員会」を立ち上げろ！という本音とも冗談ともつかない意見がでるくらい会議が増えました。また、それぞれの委員会で採決された規定、指摘事項等に伴い、改修、報告書提出も実施されました。水道橋病院のみならず、東京歯科大学の向上という目的があつてのことで、各委員長を筆頭としたパートさんや派遣さんを含む全職員の苦労は大変でしたが、意識改革が成された一年でした。その一員として、協力できたか？できたとすれば貢献度はどうか？ドンだけ〜！？反省、デスヨ！

2008年は、仕事始めの会で学長より大学遷都構想のお話を拝聴し、改めて気を引き締めて、足を引っ張ることのないように業務遂行を心掛けたいと思いました。個人的にも50歳という節目を迎え、心身共にアンチエイジングして、セカンドライフを見据えながら、水道橋病院27年間の経験から得た、次のランナーに引き渡す「タスキ」を縫い始めたいと思います。

下島 隆志(歯科矯正学講座 大学院生)

2007年は臨床研修を修了し、大学院入学、歯科



矯正学講座入局という大きな節目の年であったと思う。大学院での数々のセミナーや、矯正科での研修カリキュラムはどちらも内容が濃く、今まで充実した日々を過ごしている。けれども、私にとっての2007年は、何と言っても前年末に誕生した娘の成長を見続けていた一年だった。生まれた瞬間から目を見開いて周りをキョロキョロ見回していた姿は今でも鮮明に覚えている。自宅の流し台で沐浴させたり、ミルクを人肌に作って一生懸命飲ませたり、育児という今まで体験したことのないエキサイティングな経験をすることが出来た。最近は家にいられる時間がやや短くなってしまったが、家にいるときは娘とスキンシップを図るようにしている。有難いことに娘は、初めて立ち上がった時、初めの一步を踏み出したりするのは、私がいる時を選んでやってくれているようである。父親思いの娘のおかげで子供の成長を見逃さずに済んでいるが、2008年も家庭と大学との両立を実現し、くれぐれも「おじちゃん、また来てね」などと言われぬように気をつけたいと思う。

世木田 晋(歯科医学教育開発センター 事務主任)

2008年1月1日朝、サッカー天皇杯決勝戦観戦のため国立競技場の行列に並ぶ。1ヶ月前にも行列に並び結局降格の瞬間を広島ビッグアーチで見たんだっけ、と思いながら入場し、席に着く。まだ試合開始4時間半前なのでスタンドはがらがらである。しばらくすると天皇杯決勝前に開催される女子サッカー選手権決勝の準備等が始まった。女子サッカーはテレビでも殆ど見たことがなく、ましてやスタンドで観戦するのも初めてである。当然選手の名前も殆ど知らない。隅の方でほんのわずかであるが女子サッカーの応援団がいる。そうこうしているうちに試合が始まった。最初はのん



びりとした気持ちで見ようと思っていた。実際男子と比較すると上手くはない。しかしそれを打ち消すくらい的一生懸命さがひしひしと感じられ、程なくこちらも一生懸命観戦するようになった。

一生懸命さ。本来であれば公私共すべてのことに対してなければならぬことであるが、改めて考えると全ての出来事に対して一生懸命さがあつたかと問われると、「Yes」と胸を張って言える自信がない。よし今年は自信を持って「Yes」と胸を張って言えるようにするのを今年の抱負にしようこのとき心に誓った。

高際 睦(数学研究室 准教授)

「困った、話すことない」

妻の実家では、新年の恒例行事として、家族全員がその年の抱負を話すのだが、その時に自分の番が回ってきたときの私の偽らない心境である(「話す」を「書く」に変えると、この原稿依頼を受けたときの私の気持ちになるが)。大学を卒業してから、2、3年前までは、ほぼ3年おきくらいに、職場や環境が変わっていたので、その年の抱負として話すことに事欠かなかった。ところが、最近、安定したと言うよりも、どちらかと言えば、マンネリな生活を送っているの、これはと言うことがとっさには思い付かない。この状況はとてもまずいので、今年は、仕事でも、プライベートでもいろんな事に積極的にチャレンジしていこうと固く誓った。ところが、冬休み明けに大学に戻ってみれば、去年からやり残していた仕事に追われる毎日である。一応、チャレンジしようと思う気持ちはあるのだが、実現するのは、いつになることやら。

田中 佳子(市川総合病院医事課病歴室 医療事務員)
振り返ると、去年は日々生活に追われて駆け

足のように過ぎていき、気づいてみれば心に残るような出来事がない1年でした。それなのに...それまで怪我に縁のない私でしたが、年末に怪我をして色々の方々にご迷惑をおかけしてしまい、最後にきて痛い思い出の年にしてしまいました。今年は健康管理に注意し体力づくりを...

また、今春には職員3名が病歴室に配属されることとなり、仕事においても充実した業務ができるよう努力してまいります。後半には専門資格の試験がありますので、「合格」をめざして勉強の年に。そして気分転換には食事・買い物・映画に音楽と、一日を楽しく過ごして見るもの聞くもの心豊かに過ごせる、そんな有意義な一年にしていきたいです。

手銭 親良(保存修復学講座 大学院生)

2007年を振り返ると「あつという間」という表現が一番適切な一年だった。4月に研修医を終え保存修復学講座入局という環境の変化が大きな出来事だと思う。医局の中で初めてのことばかりで戸惑う事も少なくなかったが諸先輩方のおかげで、なんとか乗り切ることができた。研究に関しては、「研究」が具体的にどのようなものか、どのように行うか、を学ぶことができ、自分は何がやりたいのかを考える良いきっかけになった。

大学院生活もすでに四分の一が過ぎようとしている。今年は忙しい中でも常に目的意識を持って、ただ「あつという間」ではなく、ひとつでも多くのことを吸収する1年にして、その結果、来年の今頃、2008年は忙しかったがとても充実した一年だったと振り返れるように毎日を過ごしたい。

二宮 文(学生 第3学年)

早いもので、私が東京歯科大学女子バレーボール部に入部して3年が経ちます。そして昨年の秋、とうとうキャプテンを引き継ぐことになりました。昨年のデンタルでは男バレが『33年ぶり優勝』の大快挙を果たし、応援していた私達も優勝の瞬間大号泣でした。でも、同時に羨ましさを感じたのも事実です。

「女バレも自分達の手であんな感動を作って味わいたい!!」今も心からそう思います。毎年掲げている『決勝リーグ進出』の目標は、一昨年も

昨年もおと一歩！の所でギリギリ手が届きませんでした。

次のデンタルで私は引退...

2008年は私のバレエ生活の集大成として、大きな意味を持つ1年になると思うのです。だからこそ最後にキャプテンとして、3年越しの夢を絶対に叶えたい。がむしゃらに、練習あるのみです。可愛い9人の後輩達と一緒に頑張ります！先輩、坂先生、デンタルがある8月を楽しみにして下さいます！

野村 昌史(学生 第3学年)

あつという間の一年間。気がつけばもう3年生も終わりで、つまり学校生活の半分を終えようとしている。3年生になって、臨床科目も始まり、実習も毎日。1年生の頃、あんなに憧れていた白衣も、今や毎日着ている。そんな2007年は「二十歳」になった年。「二十歳」といえばもう大人の仲間入りで、何か特別な境界線であるように感じていた。しかし、いざ「二十歳」になって実感したことは、何も変わらないということだった。それでも、「新しい道」を踏み込もうと努力することを決め、今年一年間を過ごしたが、臨床実習や最高学年となった部活に日々疲れ、自分のやりたいことを一部しか出来なかった。

今年はもっともっと忙しくなるかもしれないが、まだまだいろいろなことにチャレンジしていき、自分の可能性を広げていきたいと思えます！

符金 誠示(市川総合病院会計課 事務員)

2007年は、新会計システムの導入、SPDセンターの稼働開始など、わが市病会計課をとりまく環境が大きく変化した年であった。

また、個人的には、某歌劇団の某生徒さんを応援させていただくようになったおかげで、多くの気付



きや成長の糧を得ることができ、この年齢になってようやくではあるが、「ああ、生きてるな！」と実感できた一年となった。お世話になった皆様、感謝します。

明けて2008年、子年。私は年男である。

私が尊敬する「日本一の商人」齋藤一人さんの言葉にある、人が生きていくうえで大切な3つの要素...

「体に栄養、脳に知識、ハートに徳」をしっかり蓄えて、元気でしあわせな日々を送っていきたいと思う。

頑張ります...否、「顔晴り」ます！

福山 賀子(歯内療法学講座 大学院生)

2007年1月に、多くの先生方にご助力を頂き、学位論文審査を終了することができました。従って大学院4年次はこれからの自分の進路について十分に時間をかけて考えられる年とすることが出来ました。

2008年度からは米国のアラバマ大学歯学部で、Postdoctoral Fellowとしてお仕事をさせて頂くこととなりました。新たな地で精一杯努力をし、世界に認められる成果を出せるようになることが今年の私の抱負です。

藤野 明日実(大学事務局庶務課 事務員)

昨年4月に東京歯科大学に入職して、約10ヶ月が経ちました。

「職場」という初めての環境、慣れない言葉遣い、緊張の連続、右も左もわからないことだらけでしたが、今こうして楽しく仕事に取り組みしているのは、温かく支援して下さった周りの皆様のおかげです。深く感謝しています。

初心を忘れずに、フレッシュさを残しつつ、信頼される事務職員に少しでもなれるようにがんばるとするのが今年の抱負です。

まだまだ未熟な私ですが、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

松岡 海地(千葉病院 臨床研修歯科医)

三月の国家試験合格後、それまでの勉強専念から一変、こんどは研修医として患者さんを治療する立場となって早10ヶ月が経つ。学生時代にケーシー姿の研修医を見てうらやましいと思

うとともに、自分ならもう少し真面目にやるのになと思ったりもしたが、今自分が研修医としてどのように見られているかはわからない。この春からは臨床検査学研究室の大学院生になる。こんどは大きな目標ができたので、十分に研究に励みたいと考えている。残りの研修期間中に臨床の疑問を指導医にしっかりと聞き、基礎技術を学ぶとともに、大学院生としての心の準備もしていきたいと思う。晴れ晴れとした気持ちで春を迎えたい。

水島 知也(大学事務局教務課 事務員)

昨年4月に本学に就職してから、今日まであっという間に時が過ぎたように感じます。社会人一年目の私にとって、全てのことが色々な意味で刺激的でした。苦勞したことを挙げればキリがありませんので、その中から一つご紹介いたします。私、朝が...非常に苦手なのです。加えて、学生時代は昼夜逆転の生活をしていたので、戻すのに苦勞しました。そんなわけで、毎日朝に怯えながらの生活をしている次第です。よって今年の目標の一つは、朝スッキリ起床出来る方法を考えることです。

また仕事面では、様々な分野の仕事を確実に一つ一つ覚えていこうと思います。昨年は、自分の事で手一杯だったのもっと視野を広げられるようにしたいです。

多々生意気な部分がある私であります、温かい目で見てください。

森塚 光子(千葉病院薬局 主任薬剤師)

食品偽装等が報道される度に「食の安全」をひしひし感じる今日この頃です。私が無化学肥料、無農薬で野菜作り始めたのは、息子が生まれ、助産師さんから「赤ちゃんのおしゃぶりは野菜が一番、野菜嫌いがなくなる」というお話を聞いてからです。その息子も家を離れ夫婦ふたりになりました。

我が家のカレンダーの始めは野菜作りで一番大事な土づくりからです。落ち葉を集め、米ぬか、油かす、骨粉等をまぜて半年寝かせて堆肥を作ります。自然と真摯に向き合い対話をしていく生活は人類万国共通ではないかと考えると心が癒されるような気がします。

2008年は初心に戻り、錆び付いた頭に知識という堆肥を作りたいと思います。

八木 由里子(国際渉外部 事務員)

こちらに就職して丸三年。当初は、海外からの留学・見学希望者の問い合わせを受けるたびに、学内をあちこち聞いて回り、ようやく東歯のことを知っていった有様でしたが、昨年あたりから本来のサービス精神が顔を出し、「世界の国の中から日本を選び、東歯を選んで来た人たちに、ああ良かったと思って欲しい」と思うようになりました。

ところが実際にやっていることと言えば、韓国の学生たちの先頭を「カジャ!(Let's go!)」とガキ大将のように歩き、講座や日本の風習のことを聞かれてもオタオタ。要するに常識がない、落ち着きがない、「品格」もない。一朝一夕には身につかないとは知りつつも、このままではいけないと思う場面が多々あり、改善の努力だけはしたいと思っています。

山本 勝彦(大学事務局施設課 主任建築技師)

年末、親戚が子供を連れて帰省してきた。

子守役で子供達と一緒に公園で遊ぶ。来年小学生になる子の目標「補助輪を外して自転車に乗る」ことにつきあうことになる。何度もの挑戦の結果、恐る恐る一人で乗れるようになる。と今度は自由自在に、無心に、坂道や悪路に挑戦する。

この瞬間に立合えてよかったと思うと共に、別の考えも浮かんで来た。ものごとのはじめの澆刺とした精神を大切に、時々振り返る習慣が、探求心、技術向上、楽しさにつながる。なにか当たり前のことを教えられた。

(五十音順)



学生会ニュース

2007 日タイ歯科学生フォーラム

国際医療研究会の田中らいらさん(第1学年)は、海外スタディーツアーとして、平成19年12月21日(金)~12月30日(日)の10日間の日程でタイのバンコクを訪れた。本事業は外務省の「日タイ修好120周年記念事業」認定を得て、神奈川歯科大学国際医療研究会の主催、東京歯科大学国際医療研究会が共催し、明海大学歯学部も参加し行われた。神奈川歯科大学の阿部 智先生(本学105期生)を訪問団長に、学生11名、歯科技工士1名の計13名での訪問であった。

初めに、厚生労働省から国連事務局に出向中の難波江先生と国立国際医療センターからJICAタイ事務所に出向中の小林先生より、国際機関でのキャリアパスと鳥インフルエンザに関する講義を受けた。次に、在留邦人の健康管理とメディカルツーリズムの現状を視察するためバンコク病院を見学し、国境を越えた世界的な患者獲得競争の最前線を目の当たりにした。またタイのバンコクにあるマヒドン大学では、大学病院の見学後、学生たちと学術交流や文化交流を行った。そして歯科保健のボランティア活動にも参加し、マヒドン大学の先生方とともにバンコクから車で7時間ほどのマンマー国境のターク県に行った。この活動はタイ王国シリントン女王陛下の社会貢献活動の一環でもあり、視察に来られていた女王陛下に謁見する機会を得ることも出来た。そして最後に、日本大使館への表敬訪問をし、本事業の認定のお礼と本事業の実施状況の説明を行った。

このプログラムの目的は日タイ両国間の歯科学生レベルでの交流と関係強化であり、医療従事者の偏在や歯科医療格差解消などの国際歯科保健への取り組みを共同作業で行った。本事業を通して、参加した学生たちは単なる国際交流にとどまることなく、歯科医師としての問題の啓発と解決を共に考える力を養ったことだろう。

「2007タイスタディーツアーに参加して」

東京歯科大学国際医療研究会

田中らいら

今回、私たちは現地でマヒドン大学の歯科保健活動に参加しました。ドクターたちは、タイのためにという熱い思いを持っていて、ボランティアとして毎月無償で歯科医村へ行き、無償で多くの人たちの虫歯を治しています。私は、彼らの姿に強く心を打たれました。しかし活動に参加していたタイの先生は「私は今の活動には満足していない。本当に必要なのは虫歯の治療ではなく、予防処置なんだ。ボランティア活動に本当は何かが必要なのか、私たちはきちんと考えなければならぬ。」と話してくれました。

ボランティア活動に必要なのは、まず“人々の志”です。しかし、それだけでは本当の意味で実行したとは言えません。相手を理解し、こちらがしてあげられることと相手が望むものが一致しなければいけません。また、活動を企画、運営できる力と活動を支持する人々や団体、これらすべてが協働して初めて、本当の意味でのボランティア活動が成立するということを学びました。“ボランティア”と言うと単に精神論のように語られることが多くあります。しかし、この体験を通して、実際はもっと現実的なものだということを学びました。

最後になりましたが、スタディーツアー実施にあたりご支援いただいた諸機関、我々を温かく迎えてくれたマヒドン大学の方々、多くのこ



住民の歯を診る現地の先生：平成19年12月27日(木) タイ・ターフ県の小学校

とを学ばせてくださった先輩方、神奈川歯科大学の皆様、参加を快く承諾してくれた両親に心から感謝申し上げます。今回のスタディーツアーから学んだ事は、自分だけのものではなく、後輩や後続の人たちにも伝えていくことが出来たらと考えています。

スキー部 第24回冬季歯科大学対抗戦 見事準優勝！

平成20年1月2日(水)から3日間の日程で、第24回冬季歯科大学対抗戦が行われた。決戦の舞台は、昨年同様、長野県野辺山スキー場。全国から集まった11の歯科大学・歯学部によって優勝が争われる中、本学スキー部は、見事、総合準優勝を獲得した。

今回の大会では、男子・女子とも健闘し、準優勝の好成績につながった。この結果を受け、3月に開催される歯学体においてもさらなる活躍が期待される。なお、主な個人戦の成績は下記のとおり。

女子回転	優勝	薮下雅子さん(第2学年)
女子大回転	優勝	薮下雅子さん(第2学年)
男子回転	第3位	山根茂樹君(第4学年)
	第7位	赤塚公仁君(第3学年)
男子大回転	第6位	赤塚公仁君(第3学年)

平成20年武道始め・鏡開き

平成20年1月16日(水)午後6時20分より、千葉校舎体育館第3体育室において、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、佐藤 亨学生部長、小田 豊教務部長並びに武道系各クラブ部長や関係教職員を迎え、新春の恒例行事である「平成20年武道始め」が石川文平君(3年、弓道部主将)の司会により挙行された。

金子学長、薬師寺副学長、および各クラブ部長を代表して、井上少林寺拳法部部长が挨拶を述べた後、柔道部、弓道部、空手道部、少林寺拳法部、剣道部の順で演武が披露された。会場は冬の寒さを吹き飛ばすような熱気にあふれ、各部員の心・技・体の格段の向上ぶりが見取れた。

武道始め終了後、会場を厚生棟1階食堂に移し、「平成20年鏡開き」が催された。各クラブ学生は、もち米が周囲に飛び跳ねるほど威勢よく杵を振

り下ろし、まだ湯気が出ている出来立てのおもちをお雑煮や黄粉餅にして存分に楽しんだ。

また、今回の武道始め・鏡開きには、延世大学校歯科大学の学生(4名)も参加して、日本ならではの行事に目を見張っていた。



金子学長の挨拶を熱心に聞く学生達：平成20年1月16日(水) 千葉校舎体育館



日頃の練習成果を披露する弓道部員：平成20年1月16日(水) 千葉校舎体育館



鏡開きでモチつき初体験、エイヤッ：平成20年1月16日(水) 厚生棟第一食堂

図書館から

本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

中川寛一 監訳 「外傷歯治療のクリニカルガイドライン」エルゼビア・ジャパン 2007

本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のりには、できましたらご寄贈のほどよろしくお願ひいたします。

「東京歯科大学機関リポジトリ」について

東京歯科大学の学術成果をインターネットを通じてオープンに発信する「東京歯科大学機関リポジトリ」が公開されている。ここで言う「学術成果」とは主に先生方が執筆・掲載された雑誌論文を指す。機関リポジトリに登録することで、本来は掲載雑誌を購読していなければ読む機会がなかった研究者の目にも触れることになり、その論文自身のインパクト向上につながると共に、大学にとっては社会に対する説明責任を果たすことができる。

論文提供のお願い

これから執筆・掲載される論文はもちろん、過去に掲載された論文をご提供いただければ、著作権を確認のうえで登録をさせていただきます。

提供していただく論文は、査読を終えたご自身で作成されたワードファイル等となります。(出版社作成のPDFファイルや別刷りは登録できません。)ご協力をお願いします。



<http://ir.tdc.ac.jp/>

榊原悠紀田郎先生より研究資料の寄贈

平成20年1月、本学評議員の榊原悠紀田郎先生より、先生が研究のためにこれまで作成してこられた「歯科関係者個人資料ファイル」65冊と、先生のエッセイを纏められたファイル、および歯科関係図書約90冊が、東京歯科大学図書館に寄贈された。先生からはこれまでも、歯科医学史、歯科医学教育史、口腔衛生、社会歯科などの歯科関係資料ファイルと、本学関係者資料ファイル等約450冊や関連図書・雑誌を多数寄贈していただいている。図書館では、これらの貴重な資料について、整理・補修を行って本学の知的財産として有効利用を目指すと共に、永く保存していく予定である。



榊原先生：平成20年1月11日（金）ご自宅にて



榊原先生寄贈資料ファイル保存書架（図書館一階書庫）

雑誌寄贈のお願い

図書館所蔵の下記資料は、ページ切り抜きや水濡れ事故等により破損・汚損があり、利用できない状態となっております。お手元にお持ちの方は、ぜひ図書館へご恵贈くださいますよう

お願い致します。

日本口腔外科学会雑誌 35巻10-12号(1989)
 日本臨床麻酔学会誌 24巻1-7号(2004)
 歯科衛生士 22巻6号(1998)、24巻1-12号(2000)、
 25巻1-7号(2001)、28巻1-4号(2004)

大学史料室から 史料室収蔵品紹介



高山歯科医学院印章

創立120周年記念事業

記念バッジ・缶バッジ・記念切手作製

創立120周年記念事業 広報・記録作成部会では、記念バッジ、缶バッジ及び記念切手を作製致します。
 記念バッジ、缶バッジは今後、教職員、学生等に配布する予定です。



記念バッジ



記念缶バッジ



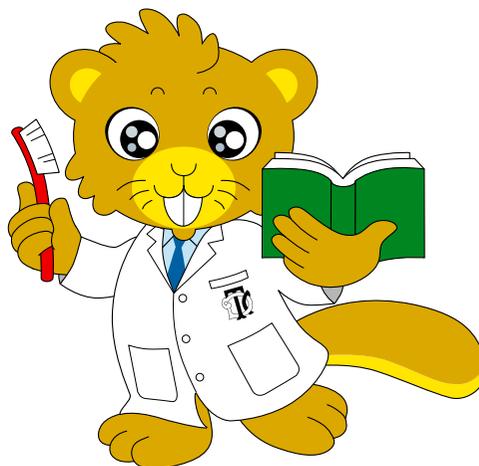
記念切手シート

創立120周年記念式典・祝賀会日程

第2回創立120周年記念事業実行委員会(平成20年2月22日(金)開催)において、「創立120周年記念式典・祝賀会」の開催日について、第1候補日 平成22年5月22日(土) 第2候補日 平成22年5月8日(土)として、収容人数・施設等を勘案のうえ、都内のホテルで開催することが、決定致しました。

東京歯科大学 創立120周年記念

マスコット キャラクター 愛称募集



本学では創立120周年を記念して、マスコットキャラクターを製作致しました。本キャラクターは勤勉の象徴とされるビーバーをモチーフとし、特有の大きく丈夫な歯をイメージ致しました。つきましては、歯科大学である本学にふさわしく、親しみやすいオリジナリティあふれる愛称を下記要領にて募集致します。

マスコットキャラクター愛称募集要項

- | | |
|------------|--|
| 応募資格 | 本学学生、教職員、同窓会員の方 |
| 応募方法 | 応募作品数に制限はありません。
必要事項(愛称、命名理由、所属(学年)氏名)を明記のうえ、Eメール(kikakuchosa@tdc.ac.jp)にてご応募下さい。 |
| 応募期間 | 平成20年4月30日(水)まで |
| 審査・発表 | 応募期間終了後、審査を行いマスコットキャラクターの愛称を決定後、本学ポータルサイト、大学広報等で発表致します。
なお当選者には、直接ご本人に別途通知致します。 |
| 賞品 | 愛称採用者には、記念品を進呈いたします。 |
| お問い合わせ・応募先 | 東京歯科大学 千葉校舎 企画・調査室
(内線:3738・3739) |
| 備考 | ・応募作品は未発表のものに限ります。
・採用となった作品の権利等は東京歯科大学に帰属します。 |

人物往来

国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

東京歯科技工専門学校(学生36名、教員2名)

平成19年12月7日(金)解剖標本室、病院、史料室見学

太陽歯科衛生士専門学校(学生80名、教員3名)

平成19年12月18日(火)解剖実習室、病院、他見学

東京歯科技工専門学校(学生25名、教員2名)

平成19年12月18日(火)、19日(水)歯科理工学実習

埼玉県立常磐高等学校(学生78名、教員4名)

平成20年1月29日(火)解剖標本室、解剖実習室見学

市川総合病院

東京慈恵会医科大学附属病院(職員5名)千葉大学大学院(教員1名)

平成19年12月10日(月)病院施設見学

海外出張

縣 秀栄講師(市病・麻酔科)

ベトナム社会主義共和国にて口唇口蓋裂児への医療援助・技術指導及び学術調査のため、平成19年12月1日(土)から8日(土)まで、ベトナム社会主義共和国・ホーチミンへ出張。

薬師寺 仁教授、今井裕樹講師、山下治人臨床専門専修科生(小児歯科)

同済大学児童口腔医学研究所との共同研究のため、平成19年12月2日(日)から薬師寺教授は5日(水)まで、今井講師、山下臨床専門専修科生は8日(土)まで、中国・上海へ出張。

金子 讓学長

台湾歯科医師会主催The International Conference of Oral Care for the People with Disabilities 2007で講演及び、東京歯科大学台湾同窓会発足式出席のため、平成19年12月14日(金)から18日(火)まで、台湾・台北へ出張。

村松 敬講師(病理)

延世大学校歯科大学歯学部口腔生物学講座及び、同 口腔病理学講座にて研究打合せのため、

平成19年12月19日(水)から21日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。

ビッセン弘子教授(水病・眼科)

2008 Japanese Surgical Advisory Councilに出席のため、平成20年1月5日(土)から9日(水)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

兼子 智講師(市病・産婦人科)

HIV感染精液からのHIV除去セミナーと実技指導のため、平成20年1月10日(木)から12日(土)まで、中国・北京へ出張。

阿部伸一准教授(解剖)

延世大学解剖学教室との共同研究打合せのため、平成20年1月16日(水)から19日(土)まで、韓国・ソウルへ出張。

平井義人教授、加藤純二講師、五十嵐章浩助教(保存修復)

BIOS2008(SPIE Photonics West)学会で発表及び出席のため。また、医療分野におけるレーザーに関する最新の情報収集を行うため、平成20年1月18日(金)から25日(金)まで、アメリカ・サンノゼへ出張。

石原和幸准教授(微生物)

2008 Gordon Research Conference (Spirochetes, Biology of)に参加のため、平成20年1月19日(土)から28日(月)まで、アメリカ・ベンチュラへ出張。

安藤暢敏教授(市病・外科)

米国臨床腫瘍学会消化器がんシンポジウムで発表のため、平成20年1月24日(木)から28日(月)まで、アメリカ・オランダへ出張。

眞木吉信教授(衛生)

フッ化物の研究のため、平成20年1月28日(月)から2月1日(金)まで、ラオス・エンチャンへ出張。

久保周平講師(水病・小児歯科)

The 16th Annual Medicine Meets Virtual Reality Conferenceで発表のため、平成20年1月28日(月)から2月2日(土)まで、アメリカ・カリフォルニアへ出張。

大学日誌

平成19年12月

3(月) 大学院入学試験(期)願書受付開始
(~2/8)

教務部(課)事務連絡会
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
会計監査(~7日)(市病)

4(火) 看護部運営会議(市病)

5(水) リスクマネジメント部会
ICT会議

輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
千葉校舎課長会
歯科衛生士専門学校職員会
口腔健康臨床科学講座会(水病)

6(木) 一般入学試験(期)願書受付開始(~
1/28)

7(金) 大学院事務連絡会
木曜会クリスマスパーティ(市病)
予算編成打合せ会(法人)
輸血療法委員会(水病)

10(月) 公認会計士監査(~14日)
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
医局長会
臨床教育委員会
第69回歯科医学教育セミナー

11(火) 粗大ゴミの廃棄(~13日)
臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
院内褥瘡対策委員会(市病)

12(水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
学生部(課)事務連絡会
救急委員会(市病)
ICU運営委員会(市病)
薬事委員会(水病)

12(水) リスクマネジメント部会(水病)
感染予防指導チーム委員会(水病)

13(木) 業務連絡会
医療安全管理委員会(市病)
手術室運営委員会(市病)

14(金) 歯科衛生士専門学校3年生卒業試験(
17日)
CPR+AED講習会(市病)
ICT委員会(市病)

15(土) 5年生総合学力試験

17(月) 医療連携委員会
歯科衛生士専門学校1年生前期再試験
(~25日)
環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処
理日

18(火) 1・2・3・4年生前期追・再試験(~21日)
情報システム管理委員会
看護部運営会議(市病)

19(水) 図書委員会

20(木) 千葉校舎課長会
先進医療委員会
機器等安全自主点検日
部長会(市病)
管理診療委員会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病)

21(金) 予算委員会・予算事務打合せ会
歯科衛生士専門学校2年生前期再試験
(~26日)

22(土) 特色GP・現代GP公開フォーラム(於:
水道橋校舎)

25(火) 学生冬期休暇(~1/7)
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会

歯科衛生士専門学校学生冬期休暇(~
1/7)

26(水) 病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)

26(水)	院内情報システム検討委員会(水病)	18(金)	第261回大学院セミナー 科長会(水病)
27(木)	院内感染症予防対策委員会(市病)		医療安全管理委員会(水病)
28(金)	仕事納めの会(千葉校舎・市病・水病) 院内巡視(市病)		感染予防対策委員会(水病)
			個人情報保護委員会(水病)
平成20年 1月		19(土)	5年生総合学力試験追・再試験 市病フォーラム(市病)
5(土)	仕事始め	21(月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会 医療安全研修会 機器等安全自主点検日 手術室管理委員会(水病) 口腔外科改革委員会(水病)
7(月)	仕事始めの会・学長挨拶(千葉校舎・市病・水病) 6年生第4回総合学力試験(～8日) 教務部(課)事務連絡会 給食委員会 省エネルギーの日・防災安全自主点検日 口腔健康臨床科学講座会(水病)	22(火)	教養科目協議会 歯科衛生士専門学校職員会 看護部運営会議(市病)
8(火)	1・2・3・4年生授業再開 大学院事務連絡会 予算事務打合せ会 歯科衛生士専門学校授業再開 看護部運営会議(市病)	23(水)	千葉校舎課長会 学生部(課)事務連絡会 東京都エイズ診療従事者臨床研修(～24日)(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病) 院内情報システム検討委員会(水病)
9(水)	リスクマネジメント部会 ICT会議 第260回大学院セミナー 救急委員会(市病) 薬事委員会(水病) 臨床検査室委員会(水病) 放射線委員会(水病) リスクマネジメント部会(水病) 感染予防指導チーム委員会(水病)	24(木)	業務連絡会 第70回歯科医学教育セミナー 保険診療検討委員会(市病) 院内感染症予防対策委員会(市病)
10(木)	薬事委員会(市病) 手術室運営委員会(市病)	25(金)	第262回大学院セミナー 歯科衛生士専門学校一般入学試験願書受付締切 クリティカルパス委員会(市病) 社保委員会(水病)
11(金)	CPR + AED講習会(市病) ICT委員会(市病)	28(月)	一般入学試験(期)願書受付締切 医療連携委員会 第263回大学院セミナー 歯科技工室改革委員会(水病)
15(火)	臨床教授連絡会 医療ガス安全管理委員会 講座主任教授会 人事委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日	29(火)	薬事委員会 データ管理者会議
16(水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 武道始め		
17(木)	部長会(市病) 管理診療委員会(市病)		

29(火) カルテ整備委員会
診療記録管理委員会

30(水) 総合歯科検討委員会(水病)

31(木) 治験審査委員会(市病)

30(水) 1・2・3・4年生後期授業終了

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文（平成20年1月現在）

編集後記

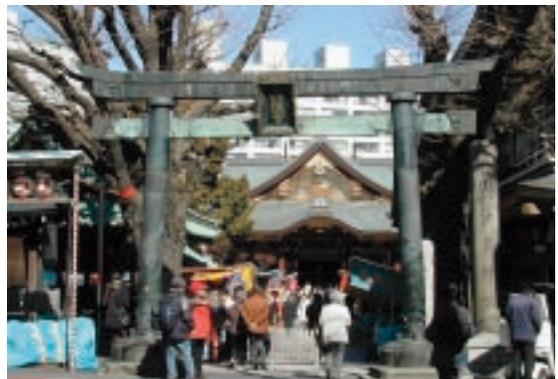
今年度の歯科医師国家試験に本学から139名が受験いたしました。全員の合格を切に祈ります。そして6年生には爽やかな笑顔で卒業式、謝恩会に臨んでいただきたいものです。

編集後記の写真は、本学にゆかりのある場所または東京や千葉の名所、旧跡を歳時記とともに掲載しておりますが、今号は湯島天満宮、別名、湯島天神を選んでみました。1月には、梅が仄かな香りとともに清楚に咲いておりました。

平安時代、藤原時平の讒言により左遷された菅原道真が、大宰府で亡くなった後、各地で天変地異や疫病がおこりました。これらは菅原道真の怒りによるものと信じた人々が道真の霊を安んずるために各地に天満宮を建立しました。その後、ご存知のように菅原道真を、学問の神、誠心の神として崇拝し、元旦には一年の計の誓願、受験シーズンには合格と学問の成就を祈願して参拝する人が絶えません。

さて金子学長は年頭のご挨拶で、学問に一生を捧げた野口英世を顕彰する「野口英世アフリカ賞」について述べております。また本大学広報でも前号から創立120周年記念事業について関連記事を掲載してまいりましたが、重要な記念事業として、移転を含めた本学校舎の将来構想についてご説明されました。本大学の三本柱である研究はいうに及ばず、教育は学問を授け、臨床は学問を根拠とします。この大事業のいかなる時期、場合においても、「大学は学問の府である」ことを肝（胆）に銘じ、臍下丹田に力をこめ、乗り切っていくことを覚悟しなければならないと思います。

（広報・公開講座部長：内山健志）



湯島天満宮（湯島天神）：東京都文京区

大学広報はPDF版をオンラインで閲覧することができます。
<http://www.tdc.ac.jp/news/index.html>